（二十六日夕刊）

磐城新聞

休刊（大祭日、第三日曜） 定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢） 廣告料（一行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六番

來る三十日に開く問題の平町會
萩原吉田氏等立つて利權議員を糾彈

平町では來る三十日午後一時より町會を開き傳染病豫防費追加豫算並に實行緊縮豫算の執告をなすこととなつたが同町會席上民政黨萩原義雄、吉田吾平、吉田寅之助その他少壯正義派の町議は政友派並に中立組と合流し例の上水道起債反對の猛運動をなしてゐる町議六名、利權組に對し痛烈なる攻撃の矢を向け然かも町會議員として町民の輿論と理想に反し起債反對をなす町議のあるは他の公正なる町會議員の迷惑甚だしき限りで町當局は其の反對議員の氏名を町民に公表するの必要あるべきを力說し更らに巷間傳へられる平町會議員一部の醜類と東部電氣會社問題の噂についても町會淨化運動が起されるらしく町會の成り行きは極めて注目を惹いてる

思はしくない秋刀漁漁況
磐城丸の報告

小名濱町水產試驗場の磐城丸は秋刀魚漁況調査のため去る十五日小名濱を出帆したが二十五日午後十一日歸航したが報告によると十七日午前三時ころ金華山東四分三北百八十浬地點で二十反投網同七時揚網して秋刀魚五白尾を漁獲しなほ少しく場所々替へ午前十時五十分投網午後八時揚網したるところ四萬尾を漁獲した魚群は多いが魚脚が早く揚網後附近には魚影もない狀態で割台に漁獲は少かつた十九日は金華山東四分の一南百二十八浬地點にたいて午後三時ころ秋刀魚の小群を發見し四十反網を投じ午後十一時揚網して約一萬尾を漁獲したとなほ中の作港德榮丸はみや城縣女川港より發して大船渡沖二十四時走り位の海區にて十萬尾を魚獲して請戸濱に歸り二十一日午前九時中の作に歸港した

本縣代表の清野女史
ゆうべ歸平す

中町南町平看護婦會長清野キヨ子女史は本縣を代表し日本全國產婆大會に出席の爲め去る二十一日午後一時出發昨二十五日夜歸平したが大會は二十二日午前十時より大坂產婆會館に開き全國代表百餘人出席諸事項協議をなし二十三日は中央公會堂に大會を開き二千餘名出席午後四時散會したが非常の盛會であつたと

經濟受難時代に多大なる貢獻
將來の發展を望まれる 七十七銀行平支店

石城郡地方に於ける經濟動亂以後受難時代に入れる昨年來の金融界に燦然として異彩を放つてゐるのは七十七銀行平支店である即ち多くの銀行は休業し又は營業するも資金の回收にのみ力を注ぎ地方の金融界は敢へて顧みぬ狀態にあるとき七十七銀行平支店のみは飽くまで地方經濟界に立脚し悠々として金融機械本來の機能を發揮し爲めに窮迫せる地方の經濟界は豫想外に匡救されたその間に於ける同行支店の偉大なる恩惠に地方民は多大の感謝を捧げてゐるが流石巨費を擁する

東北第一の銀行たるの面目躍如たると同時に平支店長山田勇太郎氏が機宜に的した新進銀行家として敏腕を縱橫に揮ひ其の快力亂麻を斷つ如きとは益々同行本支店の信用を高める所以にして將來大いに望みを囑されてゐると同時に益々發展期して待つべきものがある

式年遷宮奉拜並巡禮記（二）
平消防組頭 井上茂作

斯る由緒深き世界的文化を維持保護することと當然過ぎる程當然なりと謂ふべし生之を憂ふるや久し曩きに文部內務兩當局に建言書を提出したるも是が爲なり、消火の設備として水道を布設し總工費貳拾九萬五千圓內貳拾四萬五千圓は古社寺保存費、即ち國庫補助の恩典に浴したるものなり。此機會に於て消防の設備に防火消火の二種あることを述て見たいと思ふ

防火 設備とは元も火災に罹らぬ建物即ち耐性物假令は鐵筋コンクリト石造煉瓦、其他の倉庫又は防火塀防火壁の如き若くは屋上制限法を布き、飛火を防き類燒延燒を少なからしむる方法も其一なり。要するに火災の起因を防止する設備を防火施設と謂ふべし然らば消火設備とは如何なるものを指すかと云へば火災發生したる場合に使用する水利水道の如き貯水池又は消防機械器具消防の組織操法の訓練等此等の部類を消火設備と稱するを妥當とすべし防火と云へ消火と云ふも何等差支なきも、防火消火の專門語ある以上は、之を分類すること當然の歸結とすべし。然るに水道の如き全然消火の使命の爲め設備したるものに對して防火の語を用ゆるは適當なりとは云ひ難し、何となれば防火とは火災を發生せしめざる設備、少なくとも火災の起因を減少せしむる設備を云ふのであつて、水道の如きは火災發生したる場合のみ消火用として威力を發揮する性質のものにて火災發生前の防火用としては此の效力存在せざればなり。既に防火力消火力此二つの用語ありとせば實際に區別あるは勿論なるに法隆寺の水道布設目論見書設計書を見るに防火水道と書しあり、殊に普通消火栓と稱するものに對しても、防火栓と命名しあること防火消火の用語が混同し不便を感ずる場合なきか、器具の名譽を正確に爲し、營かざれば注文の場合などに於ても種々の支障なしとは限らず、敢て一言私見を加へたる次第なり、唯々嬉しく感じたるは法隆寺の水道用接手金具を町野式を採用せしこと是なり、消防用接手金具は全國的に之を普及し、消火の威力を示し火災損害を減少せしめ度との考へあるを以てなり。法隆寺水道の梗概を記せば平方吋百封度の水壓を必要とし、此壓力は二百三十呎の水頭に相當し放下せらるゝ最高の水滴は無風狀態に於ては能く百三十四尺の高さに上り、相當の風ある際の有效放射水は特に八十三尺に達する由なりと、水源地に溪谷より流れて集中する場所を撰び、鎌峠と稱する地點に乳母ヶ懷と云へる處の稍廣き窪に

堰堤 を築きて溪流の水を貯溜したるものにて取水口に於ける有效水量は四十二萬立方尺二十個の消火水流を放射し、約十六時間繼續し得る計算なり消火栓は配水管の延長千八百五十六間地下式地上式の二樣に配置せらる。此消火用水道布設の效用は申すまでもなく一朝祝融のありたる場合は、必らず威力を發揮し火災損害を減少し得べし特別保護堂造物並に國寶の維持保護の爲め盡力せられたる聖德太子奉贊會奈良縣當局、其他關係せられたる諸士に對し、此際深く敬意を表し感謝するものであります法隆寺を拜觀し奈良に戻り、一行中麻生氏は京都へ宮內木下兩氏と大阪へ同地に於て惜別の情禁する能はざりしが、各自分列し再會を約したり。

石城郡下の坪刈り
廿四日から開始

石城郡農會では常例の稻增收品評會を審査するため廿四日から左の日割で第一回の坪刈を行つてゐるが本年の米作は九月以來の早冷で意外にわるく大浦村の如きは一反七俵收獲は極上で平均漸く四俵半位に過ぎず平年より一俵以上の減收を見てゐるのでこの分では石城郡本年度の實收高は前年の十五萬四千石に比し一割近くの減收だらうとますく悲觀に傾いてゐる

▲廿四日湯本町、鹿島村、平窪村、▲廿五日好間村、飯野村、夏井村▲廿六日神谷村、草野村、平町

聲望高き丸百
地方請負業界に大進出

石城地方の請負業界に近來素晴らしい勢力を以て一頭角を現はしたものは平町新川町丸百材木店佐藤々助氏である、平町第三小學校新築工事が工費五萬餘圓を以て公入札を行ふや金融界動亂の現下此の大工事を容易に仕上げることの皆々ならざる請負業者は些さか尻込みの態であつたが此の間に處し然かも勇敢に容易に之れを請負つた丸百材木店の實力と佐藤氏の手腕は一般の認める所となつた、尤も氏は請負業界には永き經驗を有し本春は茨城縣南中鄉小學校建築を初め各種の工事を請負ひ各炭礦御用の材木指定商にして居村神谷村議を初め名譽職に參し令息佐藤福太郎氏まだ嚴父の遺業を繼いで忠實に業務に精勵し社會の信望を集めてゐる

小說 死を超ゆる者
(121) 三上於菟吉作 布施平八郎畫

永遠の呪咀 (二)

が、さうした事を心の打擊と云ふは餘りに自分に遠い問題の樣に感じられた、彼女は寧ろ一日も早く自分が無一物になる事を望んだ彼女をこのいまわしい家に繫いたのは黃金の鎖りであつた、黃金の消滅であつたと云へ、聞が罪のために自由を失つた身となつたと云ふ事實は或る意見でより以上彼女の心を桎梏に追ひ入れもした。櫻木夫人や村越の助力でそのうちに機を見て離婚のしゆ段を講じると云ふ相談も出來て居た矢先聞が官權に拉し去られたのは困つた事であつた——今此處でさうした問題を言ひ出したら世間の目からはどう見ゐるてあろう。

財力の盛んであつた時にはあの樣に嫌らしいものでも良人とよんだが不運な身になるとすぐに後足で砂をかけたと考へられるのが當然ではないか彼女は今の拔差しの出來ない身になつて了つたのを感じた。併しながらどつちみち聞の顏を一日でも見ないで濟むのはまず何よりも嬉しかつたのであつた

「尼になつた氣でゐさへすれば……」と彼女は心に呟いて果敢ない滿足を感じるのであつた

或朝突然櫻木の和子から電話がかゝつて來た

「言つて好いのだか惡いのだか知れないけれど」と和子は言ふのだつた

「あなたを吃驚させることがあるのよ」

「何でムいませう」と彼女は答へた

「東京へ歸つて來たのですつて」

その簡單な言葉はとき子には無量の意味を以て響いた。突然激烈な光が銳を射たやうに感じて彼女は思はず其處へグタ〳〵と坐つてしまひたい樣な氣がしたが漸く氣を取り直して

「まあ！」と微に叫んだ

「昨晩村越さんが訪ねて來て下すつて出し拔けで隨分驚かされたが今後はずつと同じ下宿に滯在することになつたと話て吳れたのよ」

何だか大學業を始める事になつたのですつて」

「とき子は答へる事が出來なかつた。相手はつゞけた

「やつぱり孤兒院の方なんですつて……後見をしやらうと言ふ人が出來て、東京で新しく立派な孤兒院を自分で經營する事に定つたのだと言ふ話しよ」

とき子はわづかに

「まあ！」と低く叫んだ

「私も未だ逢はないんですの、當人も當分は誰にも逢ひたくないと言つて居るさうですの……然しそのうちには屹度どうかして訪ねてやりたいものだと實は思つて居ますけれど……」

とき子は驚きから恢復すると同時に急にむねがふさがつて來た。瞳を熱くした淚が、瞼を溢れてはら〳〵と頰を傳はり流れた。とき子はたとひ勇が自分の本當の弟でないとしても、姉らしい親みを以て彼を訪ねる事であらう、逢いたい時には何時でもあの懷しい顏を見る事が出來るであらう。けれども自分はどうして……二度と彼の前へ姿を現すことが出來るであらうと種々自分自身の心に問ふのであつた。

女流眞打揃競演

兼てラジオにて放送して置きました浪曲女流大家の大競演會
第二回目巡業
關東浪曲 親睦會女流團 御披露興行
桃中軒桃千代孃 桃中軒武の井 吉川亭虎孃 妻川君奴孃 妻川君代孃 天中軒月子孃 外數名
當る十月二十八日午後五時花火會圖開場
入場料 各地共金壹圓也 御披露の爲め一等席平土間金四十錢
平 聚樂館
後援 親睦會

急告

毎度御ひいきに預りまして難有ふ御座いました、皆樣御機嫌よく御過し遊ばされ誠に悅ばしく存じ上ます。扨て弊店儀昨今の不景氣に鑑み人氣回復の策として再び開業當時の職人を招き本日より『天ぷらさカキフライ』を始めました、從事より一層勉强致します一度御試食の上倍舊の御引立を御願ひ申上ます
十月廿五日
平田町 やぶそば 電話四番

萬屋貨物運輸部
電話二七三番
萬屋與一
家屋付貸地あり
養鷄場向理想の地御希望の方は來談ありたし

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇
大販賣店 平町五丁目角 山野邊藥局

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番 サシミ

緊縮と輸入防遏
純國產品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆樣へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等 復興債券（額面百圓）六十本
二等 蓄音器（三笠號市價七十五圓）百二十本
三等 置時計（八日町マホガミ 市價三十五圓）三百本
四等 目覺時計（角形市價六圓五十錢）千三百五十本
五等 机上時計（市價二圓廿錢）五萬八千三百本
（期日十一月三十日迄空籤なし）
特約店 大谷時計病院 電話一九番

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院 電話四三六番

靴の御新調は……今
時節柄……空前の安賣
キカイ製靴より安心なる
定評有る大塚の自製靴を
流行新型ゴロフ形
△ボックス革實用 短靴 七、五〇ヨリ 編上靴 九、〇〇ヨリ
△赤革スポート 短靴 九、〇〇ヨリ 編上靴 一一、〇〇ヨリ
修繕二十四時間內迅速安價
大量製產 堅い店
平町田町 大塚支店製靴部 電話七〇二番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院 電話三〇九

常磐五大炭礦が聯合の 第二回陸上競技大會
秋晴れの高月臺上に躍る 壯烈なる五千の健兒

常磐炭礦聯合第二回陸上競技大會は愈々二十七日午前八時より平町高月臺の磐中グラウンドに於て開催される事となつた、炭礦の行事中特に呼びものゝ此の大會競技は炭礦健兒の心を躍らし各會社は競技主任をして旬日前より劃策準備に努め應援團の意氣正に衝天の慨あり秋色酣ならんとする高月臺は此の壯烈なる喊聲に轟ろき搖かん許りである、會長下野十朗氏以下各炭礦所長を顧問に戴き競技委員を初め審判長唐土磐中校長以下磐中職員を網羅し福島、古河、磐城入山、三井の五大炭礦粒撰りの選手百三十余名と應援團約五千人に達し地方稀有の大競技にして昨年第一回の同大會には入山軍が優勝盃を獲得した關係から各炭礦は雪辱の意氣に燃ね既に連日猛烈な練習中にあり何れ優劣なき各炭礦選手の努力が果して如何なる結果を齎らし名譽の榮冠は果して何軍の手に歸するや多大の興味と注目を惹いてゐる、因に本社は此の大會に讃し優勝旗を贈つた（寫眞は大會優勝旗）

大會順序と各炭礦の色別

大會順序は左の如くにして入場式は各炭礦選手を一目瞭然に認識出來る樣左記色別を番號を胸間に付けることゝなつたが順序と色別番號左の如し

入山（白）九〇―一一九
三井（橙）一三〇―一四九

大會役員
各所長は顧問

陸上競技大會の會長は五大炭礦の所長が交互に主宰することとなつてゐるが今年第二回大會々長は好間古河所長下野十朗氏にして各炭礦所長は左記の如く顧問に推戴してある

會長　下野十朗
顧問　菊地德太郎
同　菅原萬次郎
同　渡邊寛一郎
同　伊藤孫槌

大會順序

一、入場式（八時半分）
一、開會の辭
一、會長訓辭
一、優勝旗樹立式
一、優勝杯返還式
一、平町長祝辭
一、審判長の注意
一、宣誓式
一、競技開始（正九時）
一、優勝旗及賞品授與
一、閉會

選手番號

各炭礦色別	番號
福島（黄色）	一―二九
古河（緑）	三〇―五九
磐城（紫）	六〇―八九

競技種目と選手氏名番號

正九時より競技の幕は切つて御ろされる筈であるが各競技種目と選擧所屬會社、並に氏名番號左の如し

○百米豫選（三回五人宛）

	（福）	（古）	（磐）	（入）	（三）
A	松本1	石井30	宇野60	西田106	伊藤121
B	柴崎4	古市61	伊藤61	高木102	松田122
C	佐藤19	猪狩32	會川62	益子110	太田136
補欠		小林33		國井104	小池120

○八百米豫選（三回五人宛）

	（福）	（古）	（磐）	（入）	（三）
A	遠藤2	泉38	鈴木66	片寄90	高久124
B	齋藤11	高萩37	黑川68	江川108	田崇125
C	小野20	井上36	佐藤69	宮本98	江尻139
補		前田59		二瓶94	宗越123

○二百米豫選（三回五人宛）

	（福）	（古）	（磐）	（入）	（三）
A	渡邊3	古市31	畠山63	高橋107	高木132
B	矢内12	猪狩32	伊藤61	高木102	土田137
C	三本木21	大槻34	若松64	西田106	柴田145
補		石井30		益子110	高木138

○三段跳

福（柴崎4 高梨13 鵜川16）補欠
古（山本44 三瓶45 高橋43）同 安齋52
磐（高田81 宇野82 畠山63）同 設樂83
入（樫村91 西田功113 佐藤95）同 福田101
三（鈴木127 宗像128 小池120）欠

○千五百米決勝（十時十五分）

福（渡邊5 遠藤14 大柳22）補
古（石田39 高萩37 泉38）同 猪狩54
磐（鈴木70 鈴木正71 黑川68）同 安田72
入（片寄90 遠藤112 笹原100）同 清野111
三（佐藤129 工藤130 永山131）同 高久124

○四百米豫選（三回五人宛）

福（山部6 高橋15 山部23）
古（大槻34 石井30 鈴木35）補 井上56
磐（志賀65 鈴木66 小賀67）同 會川62
入（高橋107 江川108 二瓶94）同 西田106
三（金成133 大井川144 大和田126）同 松崎143

◎走高跳（十時四十分）

福（大塚7 富田9 高梨13）
古（片野47 吉田48 志賀46）補 山本44
磐（中井川76 高萩77 大井78）同 若松64
入（樫村91 平島97 佐藤95）同 坂內92
三（鈴木134 鈴木135 宗像128）

○千六百米メドレー（十時廿五分）
○買物競爭（婦人部）
一、晝食
○百米決勝（午後〇時）
○八百米決勝（午後〇時十五分）
○走巾跳（〇時三十分）

福（富田9 鵜川16 北尾8）補
古（志賀46 熊田51 三瓶45）同 安齋55
磐（高萩77 志賀65 畠山63）同 白石80
入（西田106 西田功113 佐藤95）同 樫村91
三（鈴木127 小池120 高木138）同 松田122

○五千米決勝（一時）

福（堀川10 田所17 柳內25）補
古（矢部41 萩生田42 草野40）同 高萩37
磐（鈴木70 佐藤73 高田74）同 高橋75
入（熊谷109 清野111 村松96）同 小宅103
三（佐藤129 佐藤清140 下山田141）同 永山131

○四百米決勝（一時三十分）
○砲丸投（一時四十五分）

福（柴崎4 安齋18 佐藤19）補欠
古（志賀46 鈴木50 淺井49）同 富樫53
磐（大河原84 日塔85 高萩77）欠
入（箱崎99 福田101 赤坂93）同 村上105
三（金142 松田122 鈴木127）同 箱崎146

○二百米決勝（二時十五分）
○計算競爭（男子部）
○千六百米リレー（三時）
△閉會

陸上競技大會委員

●當陸上競技大會は十月二十七日雨天につき來る十一月三日に延期す

木村星兩氏
講演會を開く

勿來町青年團及商業組合では沈滯せる商業の打開策として代議士木村淸治氏の歸朝を待ち同氏及星一氏を招聘して大講演會を開催すべく準備中である

濱三郡木炭

濱三郡木炭同業組合では需要期に入りながら依然不况を持續し當業者の意氣ます〳〵消沈してゐるので廿七日富岡町早川組合長宅で理事會を開き對應策を協議すると

珍無類の氣紛れ郵便
猪苗代から平へ一年二月
平署稀有の珍事

ツエッペリン伯飛行船は獨逸から日本まで五日間に樂々飛んで來た昭和の御代に之れはまた彌次喜太道中にゐまどろ陽氣な郵便が猪苗代から平まで丸十四ヶ月十日間かゝり年改まる新年の賀狀が之れと同伴して道草を喰つてゐたと云ふ近來珍らしい郵便が持ち上つた——二十六日朝平署の受付口に配達された多數の書狀の中に信夫郡杉野藤三郎差出し平署內佐藤弘氏宛の昭和四年一月元旦の年賀狀と別に猪苗代警察署一同として昭和三年八月廿七日差出し同じ佐藤弘氏宛の手紙が配達された、佐藤弘氏とは平署內勤自動車係りの部長をしてゐた人で去る八月中の異動で疾に飯坂署に轉勤してゐるので之の書狀はそのまゝ飯坂に廻返することとなつたが何處をどう道草して來たものか秋の彼岸が立つた後で年賀狀が舞込むだり昭和三年八月十七日差出しの手紙が猪苗代から平まで一年二ヶ月かゝつた等は除り突飛な此の氣紛れ郵便に平署員も驚ろき拂つてゐる

植田泉間の復線回復
下水工事竣成す

常磐線植田泉驛間太平山トンネル下水工事のため本年七月二十七日より兩驛間は單線運轉を行つてゐたので貨物旅客車共植田泉間にたける交換列車は三四分乃至三十分づゝ遲延しつゝあつたが今回竣工するに至り昨二十五日より復線運轉を行つてゐる

濱三木炭協議

濱三郡木炭同業組合理事會は二十七日富岡町早川組合長宅に開き檢査執行その他に關し協議すると

病夫を捨てゝ妻逃走
平署に捜査願

石城郡川部村字山川梅二郎二女濱野マツ（三七）は六年前栃木縣足利郡北郷村濱野源吉方に嫁入し子供まで生んだのに去る十六日無斷家出したが源吉は病身で子供を置き去りにされては困るとて實家に來て居るなら戻るやうに取計られたいと二十三日平署に願ひ出た

江名町に養鷄組合
蒲鉾の原料

石城郡江名町は蒲鉾の製造旺むにして毎年多額を產してゐるが之の蒲鉾製造に用する原料の鷄卵も毎月三十六萬個を必要とするのに現在江名の鷄卵の生產は僅かに三萬個に過ぎず非常の損失と不便を感じてゐるので之れを緩和する爲め養鷄組合を組織し鷄卵の大量生產を計劃し有力家間に種々計劃中で實現を期待されてゐる

港で取引きする釜屋の營業
東北都市や到る所に目まぐるしい繁忙

良品廉價をモットーとする平町大釜屋商店は今や正に本邦屈指の金物問屋である大坂の港から汽船に積み出す鐵多の金物は其のまゝ電報一本によつて取引され神戶に橫濱に東京に其の取引販路の擴さとる金額の莫大さは到底從人の想像を容さざる所である

數十名の店員倉方等によつて日々取扱はれる商品の捌きは東北各都市を初め到る所釜屋商店の手の及ばざる所なき旺盛を極めてゐる、家は地方第一流の名門にして店主諸橋久太郎氏を繼ぐ若主人守次、令弟元三郎氏等何れも最高學府に學びたる德才兼備の紳商にして常に機先を制して大局を誤らず眼を社會國家に致し

公共慈善 育英の事業に貢獻し卒先德を持つて範を垂れてゐる爲めに世人上下を擧げて諸橋家の德を賞い名聲は隆々旭日昇天の機運にありて將來の發展全く期して待つべきものがある

雨はけふ限り
日曜には晴れる
これから漸く秋晴れに
測候所の觀測

石城郡地方は季節はづれの颱風が現れ天氣がぐづつき出した廿五日朝颱風七三五ミリは沖繩附近にあつてジりぐ〳〵と北東に進んで來たために、關西地方から關東地方に雨又は暴風雨となつた、この颱風は秋には珍らしいほど優勢なもので、近づくに從つて石城地方も雨となり小名濱測候所では「東部南東部の風雨强かるべし」と警報を發した、一方高氣壓は北海道にあつてこれも强力な地盤を占めてゐるので、温度はます〳〵下り晩秋の冷たい空氣があたり冷々とさせてゐた、測候所では語る

珍らしく颱風がやつて來ましたので折角あすの日曜を控へて又天氣が惡くなりました、颱風は相當强いもので、けふはかなりの降雨があるでせう、あすの日曜は、まあ明から好い天氣といふわけには行きますまいが、雨は今日一ぱいでやむと思はれますから、午後は霽れる見込みです」

好間軌道整理
十四名を解雇

石城郡好間村好間軌道株式會社は重役會を開き、協議の結果、二十二日から軌道の運轉を中止し四臺の乘合自動車運轉によつて營業を續けつゝあるが軌道廢止によつて不必要なる從業員十四名は一ヶ月分の解雇手當を支給して解雇する事になり、尙ほ軌道も近く賣却取除く事になつた

銘酒「白馬の雪」
辰の口本舖は百年の老舖
松本德一氏吟釀

本郡清酒界の代表銘酒として常に燦然一頭地を拔いてゐる銘酒「白馬の雪」は平窪村辰の口本舖松本德一氏の吟醸造酒である、仰々辰の口本舖は四代約百年を超ゆる老舖にして當主松本氏は齡未だ四十に達せざる少壯德才兼備の人で嚴父の夭折た過ふや二十四才にして家業を繼ぎ爾來文化に從つて業務の改良を計り「白馬の雪」をして堂々現在の聲價を收め得たるもの實に氏が努力精勵の賜である、現、古河、磐城、入山、大倉等各炭礦會社の指定を受け遠く縣外に勇飛し平町一流所の家庭、料理店に愛用されてゐる「白馬の雪」の銘聲は實に斯業界を壓するに充分なものである、氏が常に卒先して斯業の改良發達を計つてゐることは本郡酒造界に及ぼす貢獻大なるものあり將來の發展期すべきものがある

磐新塔

平署では最近風規問題が喧しく論議されるので此惡弊を一掃すべく花柳界方面を努め問題の不良小年少女等の行動につきて取締つてゐたが此儀重なる取締の槍玉に上がつた平町南町飲食店吉田キミ方抱酌婦八島トリ（三二）外十名の酌婦は客に登樓を强要した廉で告發され平町驛前カフエーステーヂ高橋宗吉方女給岡田テル（二七）外五名は酌婦行爲をなしたので告發され何れも廿五日科料處分に附された

材木商業界に佐藤三平氏
基礎全く强固
立傳志中の人

平町地方の材木商業界に覇を稱へられる佐藤三平氏は近代稀れに見る立志傳中の人である、本郡神谷村の產にして幼少の頃より商業界に身を立てんと精勵刻苦幾多の苦心を嘗めて倦む所なく漸く社界の信用を博するに及んで獨立自營猛烈なる競爭場裡に起つて遂ひに最後の桂冠を得、今や財的に信用に萬代動かざる强固なる基礎を作り上げたのである、居村內鄕村に於ては村會議員を初め諸種の名譽職に參し大いに地方自治の發展伸張に貢獻し一方商業界に在りては各炭礦指定商人の幅を利かせ如何なる大きなる營業取引にも常に特先を制して他人に讓らず文明的商略と手腕を以て殆終してゐる如き實に今や平町地方屈指の大材木商である